



令和3年度

学校だより

10月号

～ひとがすき まちがすき いわさきの子～

横浜市立岩崎小学校

電話 331-5123

FAX 331-5343

「複眼的思考」と「批判的思考」

校長 小林 雅弘

突然ですがクイズです。右の図1はある立体を真横から見たものです。さて、A、B、Cそれぞれどんな形をした立体か分かりますか？

どれも同じ長方形です。3つとも同じ形をした立体なのか、それとも3つとも違う形なのかはこの情報からだけでは分かりません。授業であれば、子どもたちから「それだけでは分からないから、別の角度からの図も見せてほしい。」という声が出ることを期待したいところです。

では、第2ヒントです。図2は同じ立体を今度は真上から見た図です。さあ、これで分かるでしょうか？

結論は、Aが「四角柱」、Bが「円柱」、Cが「三角柱」となり、見取図で表すと図3のようになります。このように、**ある一方向から見ていただけでは一見同じと見えるものも、別の方向から見つめてみると、それぞれ違う**ことに

気付くことができます。これは、図形だけでなく物事のすべてに言えることです。昨今のSNSの普及によって、ある一つの情報にみんなが一気に流れていく今の社会の風潮を私は大変危惧しています。もちろんこれは、SNS自体が悪いのではなく、それを利用する私たちの問題です。物事を

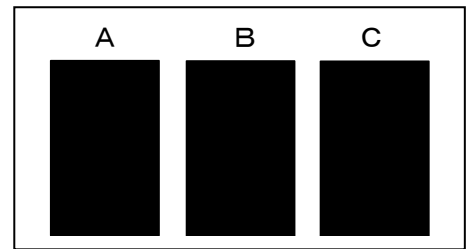
捉える際に、ある一方向からだけで判断するのではなく、別の方向・角度からも見つめてみることで、より正しい自分なりの考えをもつことができるようになります。これを「**複眼的思考**」と言います。何か一つの常識にとらわれた単眼的思考だけでは、いつまでたっても自分の頭で考えることはできません。自分自身の視点から物事を多角的に捉えて考え抜く、そんな力が子どもたちにも、そして私たち大人にも求められているのではないのでしょうか。

今回の学習指導要領の中では、この他にも「**批判的思考**」を育てていくことが強調されています。

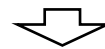
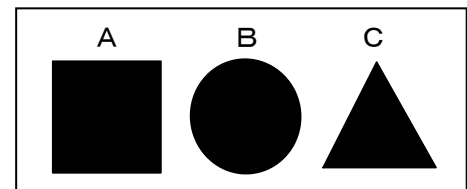
「批判的」と聞くと、何だかマイナスのイメージをもたれるかもしれませんが、そうではなくて「本当に正しいか？よりよい考えはないか？」結果を鵜呑みにせず、自分なりに分析し最適解を求める思考です。これも生きる力として子どもたちに身に付けさせたい力の一つです。

ちなみに、上記の立体の問題は一つだけ間違いがあります。それはAの立体です。Aの正解は右の図のような三角柱を横に倒したような形（サンドウィッチのような形）でした。このように一見正しいと思えることも、もう一度振り返って考えてみる、子どもたちにそんな力を育んでいきたいと思っています。

【図1】ある立体を真横から見た形



【図2】ある立体を真上から見た形



【図3】実際の立体？

